

TASC

Tokai university
Alumni Society of
Communication engineering
department

東海大学通信工学同窓会

(通信工学科・コミュニケーション工学科・情報通信電子工学科)

2017年8月1日号

発行者 東海大学通信工学同窓会
会 長 中西孝夫
URL <http://tasc.gr.jp>
住 所 〒250-0117 神奈川県足柄市
塚原1215-11
事務局長 増田和則 方

日頃の会員の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。
さて、当会の活動は11年目の新たなフェーズに入りました。皆様と共に伝統ある通信工学同窓会を益々発展させたい熱意で本年度も活動させていただきます。会員の皆様からも活発な将来へのご意見とご指導の程よろしくお願ひします。本年度より会報発行日を8月1日に変更し年次での活動を時系列に沿ってご報告いたします。



新たな11年目のフェーズに 入りました

会長 中西孝夫 (66卒)

通信」の演題で高山佳久先生にご講演をいただきました。火星から空間光通信も手が届く最新技術に新たな通信の世界を感じる内容であったと思います。又当日、会員相互、恩師との交流の場として10周年を記念して懇親会を高輪キャンパス食堂に於いて、同窓会本部役員、東京ブロック南部支部、たかなわ会からのご参加を賜り盛大に開催いたしました。10月には初めて「同窓会AO入試」に当会推薦で会員のお嬢様が合格者いたしました。今後もAO入試を推進したいと思っておりますので本件に関してどんなことでも遠慮なくお問い合わせください。11月はホームカミングデーに参画し「FM東海」の演題で通信工学、先輩の加藤卓氏に講演をお願いしました。民間FM放送の先駆けとして生む苦しみや、そのDNAが東京FMに立派に継承されているとの講演内容に熱い質問が飛び皆様の関心の高



建学の理想を共有する 同志の皆様へ

学校法人東海大学 学長 山田清志

東海大学通信工学同窓会の皆様には、ご健勝のこととお慶びを申し上げます。また、日ごろの母校へのご理解とご支援に厚く御礼を申し上げます次第です。特に昨年は、熊本地震で被災した学園の復興に心温まるご厚情をお寄せいただきました。重ねて感謝の意を表させていただきます。

さて、東海大学は今年、建学75周年を迎えました。我々はこの節目を、建学100周年を見据えたステップボードであると位置づけております。人類の未来に価値ある大学であるために、「何をなすべきか」というマスタープランを策定し、そのための教育改革や施設整備に取り組んでいるところです。このマスタープランは、本年11月1日の建学記念日に卒業生の皆様や広く社会に発表させていただきます。

なお、教育施設の整備は、皆様からご寄託いただいた建学75周年記念事業募金をもとに順調に推移しており、この春には湘南キャンパスで19号館が完成しました。主に工学部と情報理工学部が使用する校舎で、建学75周年の湘南キャンパス理工系施設整備事業の一環として建設されたものです。

この事業ではすでに、理学部が使用する18号館が稼動しております。我々は、近接する12号館、16号館、17号館と合わせてこのエリアを「サイエンスパーク」と呼称し、東海大学ならではの、グローバルな視点を有する理工系人材の育成に取り組んでいく方針です。

貴同窓会の皆様はご承知のことですが、東海大学は、通信工学を専門分野とした松前重義博士が創立した大学です。皆様は、まさしく源流となった学問を学ばれた同志であります。若き日に創立者の理想に直接触れて、母

皆様のご協力をお願いすると同時に、ますますのご活躍とご発展を祈念いたしまして、ご挨拶いたします。

2016年度 収支決算報告ならびに監査報告

以下のとおり2016年度通信工学同窓会の収支報告をいたします。
2017年4月1日

会長 中西孝夫 (66卒)
会計理事 澤田茂洋 (45卒)

<収入の部>

科 目	予算(a)	決算(b)	執行率(b)/(a)	記 事
1. TASC会費	1,200,000	900,000	75%	275名
2. 雑収入	490,000	568,889	116%	
(1) 行事参加費	0	0	—	東海教育産業様 9万円、国際通信企画様 3万円
(2) 会報広告掲載料	250,000	210,000	84%	医療法人松和会様 3万円、山王総合様 3万円
(3) 同窓会支援金	90,000	86,400	96%	霞ヶ関東海倶楽部様 3万円
(4) 寄付金	150,000	143,000	95%	
(5) ご祝儀	0	80,000	—	35名
(6) 受取利息	0	14	—	松前総長、たかなわ会様、東京ブロック宮原会長様
(7) その他	0	49,475	—	システック・リサーチ・インク岡聖吾様
当期収入合計	1,690,000	1,468,889	87%	熊本地震義援金
3. 前年度繰越金	3,233,295	3,233,295	100%	◎2016/3/31現在残高
4. 名簿発行積立金	400,000	400,000	100%	・横浜銀行／普通預金口座 1,996,885円
収入の部合計	5,323,295	5,102,184	96%	・ゆうちょ銀行／振替口座 1,419,310円
				・小口現金 17,100円

<支出の部>

科 目	予算(a)	決算(b)	執行率(b)/(a)	記 事
1. 運営費	401,000	323,179	81%	
(1) 通信費	25,000	20,294	81%	
(2) 会議費	80,000	34,755	43%	
① 理事会	10,000	0	0%	
② 総会・代議員会	60,000	34,755	58%	
③ 監査委員会	10,000	0	0%	
(3) 交通費	65,000	47,534	73%	
(4) 旅費	20,000	0	0%	
(5) 事務消耗品費	15,000	16,789	112%	
(6) 情報処理システム費	61,000	60,480	99%	
(7) 継承学部統合推進費	5,000	0	0%	
(8) 慶弔費	50,000	39,000	78%	卒業生表彰記念品 39,000円
(9) 振替払手数料	40,000	33,232	83%	支払振込料 3,672円 ・会費払込料等 29,560円
(10) 雑費	10,000	61,095	611%	熊本地震義援金、東京南支部総会祝儀、手土産
(11) 予備費	30,000	10,000	33%	熊本地震義援金
2. 支部運営費	80,000	0	0%	
(1) タイ支部	10,000	0	0%	
(2) 北海道支部	30,000	0	0%	
(3) 九州支部創設準備	30,000	0	0%	
(4) その他支援	10,000	0	0%	
3. 事業・行事費	1,565,000	1,419,382	91%	
(1) 会報発行・会費徴収	1,150,000	1,076,492	94%	
(2) 春の講演会	50,000	30,000	60%	
(3) HCD	145,000	112,890	78%	
① 広告掲載費	50,000	50,000	100%	
② チラシ印刷代	50,000	28,512	57%	
③ 通信費	5,000	0	0%	
④ 講師料	30,000	30,000	100%	
⑤ 雑費	10,000	4,378	44%	
(4) 松前博士偉業見学会	20,000	0	0%	
(5) 名簿発行	0	0	—	
(6) 名簿発行積立金	200,000	200,000	100%	
当期支出合計	2,046,000	1,742,561	85%	◎2017/3/31現在残高
4. 次年度繰越金	2,877,295	2,959,623	103%	・横浜銀行／普通預金口座 2,414,943円
5. 名簿発行積立金	400,000	400,000	100%	・ゆうちょ銀行／振替口座 932,750円
支出の部合計	5,323,295	5,102,184	96%	・小口現金 11,930円

監査報告

2016年度のTASCの収入及び支出は、関連の帳簿並びに証票の管理を含め、その執行は適切であり、貸借対照表並びに収支決算報告書はその状況を適正に表していると認められる。
平成29年4月22日

東海大学通信工学同窓会
監 事 渡 邊 勝 美
室 本 惇



2017年度東海大学通信工学同窓会活動方針

1. 全体活動

- 大学同窓会へ学科同窓会として参画
＊校友会活動、同窓会代議員会、ホームカミングデー学部デモ及び同窓会デモ支援、AO入試推進など
- 理事会開催 (定例会：四半期毎)
- 代議員会開催 (定例会：毎年)
- ホームカミングデー参画、同窓会サロンの開設、講演会など開催、ホームカミングデー案内誌に当会の広告掲載
- 大学の協力を得て会員研鑽目的の講演など企画実施
- 松前重義博士生誕地熊本を巡る研修旅行の開催 5月17～18日
- 会報発行：8月1日全会員宛発送、活動報告、学園情報、恩師、会員寄稿など掲載、及び会費納入依頼
- 通信ネットワーク工学科卒業生表彰 (通信工学科の継承学科卒業生として)
- 会員名簿管理 (タイムリーな更新作業含む)
- HP、メール・システム活用と円滑な運用
- 活性化のため、クラス会、同好会など支援 (名簿提供、案内状発送など)
- 個人情報保護の徹底
- 他の学科同窓会、同窓会支部との協調推進
- 見学会など開催

2. 支部活動

- 支部活動を支援し活性化を図る
九州支部総会開催 10月14日(土) 予定
(東海大学同窓会熊本支部総会に合わせて)

2017年度 本部組織紹介											
監 事	総務理事	企画理事	広報理事	会計理事	事務局長	副 会 長	参 観 員	名 譽 副 会 長	名 譽 会 長	松 前 達 郎	松 前 達 郎
秋 山 進 惇	中 井 宏	土 岐 晴 宏	大 森 公 雄	澤 田 茂 洋	増 田 和 則	柳 沢 真 一	小 林 孝 夫	山 根 治 仁	福 田 哲 夫	松 尾 守 之	木 村 義 昭
(76卒)	(69卒)	(94卒)	(88卒)	(87卒)	(72卒)	(88卒)	(78卒)	(62卒)	(62卒)	名 譽 教 授 (61卒)	名 譽 教 授 (61卒)
新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任	新 任

ご案内

＊2017年10月14日(土)九州支部設立総会
熊本ホテルキャッスル 15時開会予定
＊2017年11月3日 ホームカミングデー
6号館6C-104教室(予定)同窓会サロン開設
ご友人お誘い合わせでのご参加をお待ちします。
詳細はホームページ <http://tasc.gr.jp> をご覧下さい

通信ネットワーク工学科 研究室紹介



通信ネットワーク工学科 教授
情報通信学専攻 主任
村山 純

村山研究室は、2013年9月に開設されました。既に41名の学士と1名の修士を社会に送り出しています。今年は新たに9名の大学3年生が配属されました。この毎年の研究室配属は、学生にとっては、さながらプレ就職活動です。学科でも、毎年の一大イベントです。

研究室のメンバは、11名の4年生も合わせると、20名の大所帯です。ゼミ講義は20名全員で集まって行います。これは、先輩や後輩との絆を深める場としての狙いもあるためです。ゼミ教室は、卒業研究スペースも兼ねています。このため、ゼミ講義時は、かなり手狭な感があります。しかし、都心のオフィスと思えば、あまり贅沢も言えません。

大学院生も、今年は新たに2名が加わりました。いずれも、研究室内での進学者です。彼らには早速、卒業研究の内容を学会で発表してもらっています。ゼミ講義でも、大学生の研究活動をサポートしてもらっています。教員としては頼もしく感じられます。大学院生は、留学生と合わせて合計3名になります。今後の活躍がとても楽しみです。

大学院と言えば、これまで専攻主任であった石井先生が、この春から研究科長へ昇格されました。これに伴い、不肖の身ながら、私が主任として専攻を預かることとなりました。

高輪キャンパスでは、この大学院への進学率の向上が長年の課題になっていまし

た。このため、教務委員時代から石井先生と共に、学生の進学意欲向上に向けて、様々な取り組みを行ってきました。このことも功を奏し、最近では定員を確保できつつあります。一方で、少子化の波も目前に押し寄せて来ています。専攻主任としては、なかなか気が抜けない状況です。

研究室の主要テーマは、ネットワークセキュリティです。これに関わる事件のニュース報道が、最近さらに増えてきました。このような背景からか、セキュリティの研究を希望する学生も増加傾向にあります。一方で、プログラムには興味がないが、コンピューターウイルス(悪性プログラム)に興味があるという謎な学生も多く、教員の頭痛の種にもなっています。恐らく、自分自身の教養のために、ネットワークセキュリティ教育を受けたいのだと理解しています。

このネットワークセキュリティ教育は、交通安全教育と同様に、安心安全な社会の実現に向けて必要不可欠なものです。ところが、ネットワークセキュリティ教育は、交通安全教育ほど社会に浸透していないのが実情です。

これは、ネットワーク社会の脅威が、迫り来る自動車や自転車のように目には見えないことも一因かと思われます。また、親の世代より、子の世代の方がネットワークに通じていることも影響していると思われます。それだけ、ネットワーク社会の進展が急激であるとも言えます。

ネットワーク犯罪の被害に遭わないための対策方法については、昔から変わらないことも多々あります。例えば、現実社会で孤立

しないことが、ネットワーク社会でも被害に遭わないコツです。振り込め詐欺への対策は、この典型例とも言えるでしょう。

このような背景から、学生達には「集い力」を発揮してもらい、将来、ネットワークセキュリティ教育の最前線で活躍してもらいたいと願っているところです。このため、ゼミ講義では、つい熱血指導になりがちです。しかし、このようなやり方は、どうも今の時代には合わないようです。学生達には、夢や希望を持ってもらい、学びの原動力としてもらいたいと切に願っているところです。

同窓会では、2014年に講演をさせて戴いております。その時の縁で、同窓会の由井様にはサポータとして、ゼミ講義に参加して戴いております。主に、将来への関心が薄めな学生達を相手に、大手企業への就職についての動機付けを行ってもらっています。

さらに、その縁もあり、2015年の同窓会には、当時の研究室の在生である鈴木君が参加させて戴いております。(ちなみに、2015年の会報には、彼の国際会議での発表報告が掲載されています)。その懇親会で、彼は、たまたま学内合同企業説明会で来校していた研究室のOBにスカウトされ、就職が決まったというエピソードもあります。(同窓会の懇親会の隣で、学内合同企業説明会の懇親会が開催されていることがよくあります)。

この他にも、中西会長をはじめとして、多くの方に、研究室にお越し戴いております。このように、同窓会には日頃から研究室を支えて戴いており、誠に感謝に堪えません。

最近、高輪キャンパスのフェイスブックが立ち上がりました。大学公式サイトメニューにある「東海大学ソーシャルメディア公式アカウント」から辿ることができます。職員の方々から、盛んに近況について情報が発信されています。大学院の宣伝にも一役買ってもらっています。高輪キャンパスを盛り上げて戴く意味でも、ぜひとも頻繁にご覧になって戴き、「いいね」をお願い致します。併せて、今後ともご支援を戴ければ幸いです。



村山研究室学生

卒業生便り
社会人になって

城所 賢史

(17卒 通信ネットワーク工学科)



この文章を書いている時点で私が社会人になって早くも1ヶ月半が経とうとしています。この1ヶ月半は新しい環境に慣れることに精一杯でしたが、上司や同期のおかげで大変充実した毎日を送ることが出来ています。最近ではようやく周りが見えてきたように思いますが、それにつれて自分の社会人としての未熟さを痛感することが多くなりました。ビジネスマナーや高度な技術の知識・経験が足りずに周りに迷惑をかけてしまうこともたびたびあり、現実と理想のギャップに苦しんでいます。ギャップを少しずつ埋めていくしかなく、早くギャップを埋めなければという焦燥感にも駆られています。未熟さを痛感する一方でITの基礎的な技術や知識については自信を持っています。大学の講義で学んだ技術や知識、大学の仲間とネットワーク構築で議論した経験はそのまま業務で使うことは出来ませんが、高度な技術を理解する上で活かすことが出来ています。特に、今日の情報化時代を開くきっかけとなった無装荷ケーブルを開発された松前重義先生が作った東海大学で情報通信について学ぶことが出来たことは大きな自信へとつながっています。周りを見ることが出来るようになり、学生時代との違いも大きく2つ感じました。1つは時間があっという間に過ぎてしまうことです。学生時代に比べてやらなければならないことが圧倒的に多くなったにも関わらず、時間は息つく暇もなく過ぎて行ってしまう。時間とタスクの管理をしっかりと意識しなければやるべきことを期限内に終わらせることが出来ません。もう1つは自分の行動でも気をつけなければいけないということです。組織の一員としての責任が大きくなり、自分の行動や印象が組織のイメージに直結します。どのような場でも組織の一員であることを意識して行動をしなければなりません。このような学生時代との違いもしっかりと意識しながら一人前の社会人になれるように日々努力を続けてまいります。

恩師便り



バンコク生活と合気道

松浦 武信 (74卒 東海大学名誉教授・ランシット大学 医用生体工学部教授)

2014年東海大学を定年退職後、タイのランシット大学(RSU) 医用生体工学部に移り、この5月で4年目を迎えました。お陰様でタイの生活を楽しんでおります。週末にはバンコクに滞在し、趣味の合気道の稽古をしております。道場はバンコク中心部のBTSプラカノン駅のすぐそばにあります。道場長は日本人の先生ですが、私はタイ人の先生(軍人、大将)の下で稽古をしております。私の稽古日である土曜日には20~30名ほど(タイ人、欧州人、日本人、インド人など)の人達と稽古をしております。稽古では技の名称は日本語で、解説全般はタイ語と英語で行われています。稽古は結構ハードですが、稽古終了後に味わう充実感や爽快感は格別です。

ご存知のように、合気道は勝ち負けを競うことはしません。専守防衛が基本の武道だということができます。合気道は相手を無理やり力で制することではなく、相手と和合することにより無理なく相手を制する武道ですので、強い力は必要ありません。しかしながら、相手と和合することにはなかなか思うようにはできませんが、どのような状態であっても相手とうまく和合できるようにすることが私の稽古目標の一つです。

昨年、脳科学者の方から「マイルドエクササイズ(太極拳、ヨガ、タンゴなど)は年齢に関係なく、年寄でも健康の維持や、脳の活性化さらには心の安らぎを与え、老化防止の効果があるということが最近になって分かってきた」というお話を伺いました。脳の活性化は、活性化される場所が若い人と高齢者で異なるそうですがアルツハイマー型認知症の防止にも効果があるという最新のデータも見せて頂きました。合気道もマイルドエクササイズの一つと考えられますので、今後も合気道の稽古を続け、健康維持や認知症防止に努力して、タイでの生活を楽しみたいと考えております。

最後になりましたが、タイにお越しの際はランシット大学にもお立ち寄りください。大学はドンムアン空港から車で10分程度のところにあります。



ランシット大学での講義



合気道セミナー(バンコク)にて

2016年度
通信工学同窓会賞受賞者

優秀賞	城所 賢史 君 飛田 優介 君 山下 泰輝 君	努力賞	菅野真優花 君 中振 弘貴 君 嶋田 健太 君	浅山 祥太 君 山下 泰輝 君 玄 英哲 君	村山 彰大 君 長島 一步 君
-----	-------------------------------	-----	-------------------------------	------------------------------	--------------------

透析医療を中心に豊富な経験と実績で患者さまの声にお答えします。

医療法人社団 松和会
Medical Corporation SHOWAKAI

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3 丁目12番12号
TEL 03-5304-5660 FAX 03-5304-5665
URL <http://www.showakai.or.jp>
e-mail : webmaster@showakai.or.jp

山王総合(株)は
東海大学陸上競技部をサポートしています



Humanly Construction
SANNO
New Facility Management



山王総合株式会社

〒259-1142
神奈川県伊勢原市田中141 TEL 0463-95-7700
<http://www.sanno-sogo.co.jp>
東京・神奈川・千葉・埼玉・山梨・静岡・北海道

業務内容
・建築施工 ・土木施工 ・設備施工
・設備管理 ・環境衛生管理
・保安警備 ・人材支援
・研修施設の委託運営
・医療機器設備、システム管理他



国際通信企画株式会社

URL <http://www.igrp.co.jp/icp/>

【新卒募集】

通信設備工事技術者／SE・SI・NE
会社見学、随時受付しております。人事課迄お気軽にお問い合わせ下さい。
人事課 e-mail jintai@igrp.co.jp



東海大学校友会館
The Tokai University Club

株式会社 霞ヶ関東海倶楽部 www.tokai35.jp
〒100-6035 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 35階
TEL 03-3581-0121(代表) FAX 03-3581-6200

三崎一佐世保 9泊10日のヨット廻航の思い出

真 田 康 典 (64卒)

2012年の夏、友人が全長9.9mのヨット・「飛鳥」の係留場所を館山から佐世保に変えるので廻航を手伝って欲しいという。

8月初旬で海は穏やか、毎日が日曜日のため快諾した。話を聞きつけた昔からのヨット仲間の女性が私も乗りたいけど女は乗せないと断られたと言う。そこで、オーナー2人を説得、“過去の体験から、爺さん3人では漁港での接岸は漁師に断られる、50歳でも漁師は女に甘い、炊事もしてくれる。乗せた方が絶対に得”と言う事で爺婆4人の9泊10日の航海が8月11日に始まった。



ヨット飛鳥

「飛鳥」はオーナー2人が館山から三浦三崎港に廻航、ここで燃料、水、食料、酒を搭載、翌早朝、下田沖(方位220度)を目指して出港。三崎一下田間は約50マイル(92.6km)、小型ヨットの平均速度は時速5ノット(9.2km)の自転車のスピード。下田までは約10時間、下田沖では夕方になり日没と共に雨、上空、海面は真っ暗、僅か海岸の明かりがちらほら。

我々は本線航路(大型船の上り、下り)を避けてかなり沖を航行、それでも、夜中になると船員がうたた寝しているのか近づいて来る。その度にヨットの白い帆に懐中電灯を当てホーンを鳴らし、知らせる。今夜の航行は2人組2交代制にしたため、午前2時に交代。濃い目の水割りを飲んで爆睡。目が覚めると、晴天、真夏の日差し。夜のうちに、駿河湾、遠州灘、三河湾沖を通過。今回の初寄港地は三重県五ヶ所湾奥、32時間振りに「海遊人マリナ」に接岸。

翌朝、紀伊勝浦を目指す。日没前、勝浦湾奥に接岸。燃料、食料、酒が無い。電話で燃料を注文するとタンクローリーが来た。爺さん3人キャンビンに隠れ、婆さんがスーパーの場所を聞くと遠いが国道沿いにあるという。窮状を察し買い物に付き合いヨットまで送り届けてくれた。期待通りの親切に感謝。

次の朝、雨の中、出港、串本の橋を潜り外洋に出るとかなりのうねりの中、有名な潮岬を過ぎると大物が釣れた。「田辺シータイガー」に接岸、何と釣れた魚はキハダマグロ、食べきれないので半身は出刃を借りた方に差し上げた。翌日、帆走しながらスマホで検索すると、キハダマグロは1日経ったほうが旨いとある、残念。鳴門大橋を潜り、巨大な渦潮の脇を通り瀬戸内海を横切り、小豆島池田港接岸。

翌日は瀬戸大橋を潜り「仁尾マリナ」接岸、私の観音寺市の実家に移動、入浴、6日振り豊の上で就寝。徳山沖ではヨット仲間がモーターボートで食料の差入れに来てくれたが、うねりが高く接舷出来ず断念。

その後、山口県室津、「新門司マリナ」、関門大橋を潜り、「福岡マリンセンター」接岸。翌日は最後の廻航日、玄海原発の横を通り、狭い水路を通ると直ぐ近くに“様子の変な船”が停泊、毛布を干し、パンツ一枚の小父さんが出たり入ったり。118番海上保安庁へ概略を伝える、海保からはその位置に留まって欲しいと要請されるが、こちらの予定が有り拒否。数時間後、巡視船が高速で追っかけてきて、「飛鳥」と並走、タモアミに通報した船の写真を入れて、確認依頼があり同一船と返事をする、「ご協力感謝します」、と言いい、反転して高速で帰って行った。

平戸大橋を潜り、20日16時、予定時刻に九十九島パールシーマリナに接岸、入港登録を済ませ、無事思い出に残る「廻航クルーズ」を終えた。

それ以後、毎年夏、同じメンバーで五島クルーズをしており、今年は対馬クルーズを予定。

特別で寄稿



東海大学の思い出

Dr Wisut Titiroongruang

KMITL助教授

東海大学同窓会タイ支部長

私はタイ国モンクット王工科大学ラカバン(KMITL)電子工学科で助教授しています。

東海大学工学部修士課程を35年前に卒業しました。恩師は電子工学科の飯田昌盛教授と黒須植生教授です。

35年が経過しても、素晴らしい環境の中にある大きな東海大学での良い思い出が甦ります。当時の私の研究室は湘南キャンパス9号館の2階でした。私はJICA（独立法人国際協力機構）の奨学生制度で修士を取るため日本に来ました。先ず、電子工学科で学ぶ前に日本語を1年間勉強しました。外国人留学生が日本で学ぶためには日本語の修得が必要であることは自覚していました。日本語を学んだあと、電子工学科で学び始めましたがタイからの留学生は私一人で、日本人学生の中で学び生活するのは大変でしたがこのことが糧になり今日の私の日本語のスキルになっています。

修士課程2年間の目標として、半導体を選びました。当時タイでは半導体は新技術でしたが日本は半導体技術で世界をリードする国の内の一つでした。恩師の半導体の指導は高品質の演習とプランニングで大変厳しいものでした。そのことが私に強い影響を及ぼして自分自身で革新的な研究をしたいと考えるようになりました。それで、東芝の工場に入り実技を学びました。企業が日々売り上げる製品を生み出す様を体験する素晴らしい経験でした。

東海大学修士課程を卒業後、タイに戻りKMITLで講師として教え始め、自分の研究室も立ち上げて東海大学の研究室と相互交流を深めました。そして3年が過ぎた後、私は博士号(論博課程)取得を目指し再び恩師飯田昌盛教授に学ぶため日本に留学しました。この時期のことも昨日の様に思い出します。タイに戻る前、飯田教授は、又日本に戻ってきて博士としての知識を更に深めるようにと薦められました。指導者としての恩師の言葉を受け留め、私は博士に相応しい専門的な経験を積み、その結果深い知識を得ることが出来ました。再びタイに戻って以来、日本で修学中、影響を受けた物事への考え方は私の土台になったことは間違いありません。この30年間、タイでは半導体分野は進歩しました。

私自身について言えば、10名の学生に博士号、80名の学生に修士学位を取得させたことを誇りに思います。また研究分野では東海大学の研究室と共にダイヤモンドデバイス、ガドリニウム型超伝導体を開発しました。ソーラーセルはタイの会社でも製造出来るようになりました。革新的新しいものとして二次元ホールデバイスも取り組みました。

東海大学同窓会タイ支部活動としては、家族も含めたチャリティ活動や東海大学同窓生のための機関紙も発行しました。

最後に、私は東海大学同窓会のタイ支部長を喜んで引き受けています。なぜなら東海大学で素晴らしい経験をさせていただきました。私の心の中に東海大学は今も存在し続いています。

(注:中西孝夫訳、本文はHPに掲載)



ドライブに欠かせない 道路交通情報を提供する仕事

新 倉 聡 (75卒)

昨年初春、41年勤務した神奈川県警察本部を離れ、現在、公益財団法人日本道路交通情報センター(JARTIC)に非常勤で勤務しています。JARTICは、道路交通情報としてラジオ・テレビ等を通じてご存知の方が多いかと思います。最近では、道路交通情報というカーナビの機能でVICSという名の方が、馴染み深くなっているかもしれませんが、これらは、全て同じ情報源から提供されています。では、この交通情報はどのようにして収集され、提供されているのでしょうか。その仕組みは少々複雑ですが、なるべく簡単に、ご紹介したいと思います。

『交通情報』の提供は、道路交通法109条の2に規定されていて、交通情報を扱う唯一の機関として、都道府県公安委員会が行うことになっています。交通管理者といわれる全国交通警察の規制・取締り以外の“お仕事”の一つなのです。

そのため、交通情報を収集・提供するシステムや装置の整備、運用・管理を都道府県警察では行っています。全国の警察本部には、交通管制センターが最低1か所あります。そこでは、県内の道路交通状況を昼夜間問わず収集把握しています。

道路の利用状況を把握するためには、車両感知器というセンサーを道路上に設置します。そのセンサー位置を通過する車の台数や、そこに居た車の延べ時間を5分単位でカウントし、感知器データとして交通管制センターへ送っています。感知器の代表的なものは、超音波式というタイプで、お椀を伏せたような円錐形のものから超音波を発し、跳ね返ってくる超音波を受信し、その時間差から車の存在を判断するものです。これ以外に、カメラから画像処理して判断するタイプや、遠赤外線から判断するタイプもあります。集められた感知器データから、渋滞・混雑情報や所要時間情報という交通情報を生成しています。感知器データは、信号機の青や赤の表示時間をリアルタイムに制御するデータとしても使用します。どちらかといえば、交差点の信号機を制御するために感知器があるといった方が正解かもしれません。そのため、感知器で自動収集される交通情報は信号機が多数設置されている幹線道路や主要都市の都心部に限られることが多いのです。

交通管制センターでは、感知器データ以外に交通事故や道路工事等道路上で発生する様々な事象も交通情報として収集しています。これらの情報は、道路上に配置された専用の交通情報板やVICS等で、ドライバーに直接提供します。このようにして、安全、且つ、円滑な道路交通環境を確保するための交通管理を警察では行っています。

全国の交通管制センターで収集された交通情報は、JARTICに送られます。ここでは、全国の交通情報と、道路を整備維持管理している道路管理者から送られてくる道路情報とを併せ、『道路交通情報』として、マスメディアで放送したり、VICSセンターに配信したり、更に、スマホ等の媒体を利用する情報提供会社に提供しています。

最近、カープローブ(注1)を使った新たなデータ収集手段が交通情報生成に加味されてきました。更に、このカープローブ情報のみを使って交通情報が生成できないかという検討が官民で進んでいます。

その背景には、車両感知器は一部の幹線道路や都心部などに集中しており、交通情報が収集提供されていない路線や地域もまだまだ多いため、これらの需要に応えるために活用できるのではという考え方があります。カープローブ情報は、極々一部の車両(例えば、タクシーや物流トラックなど、最近では自家用車に搭載しているものもあります。)の走行軌跡データですが、一台ごとの走行実績(走行経路や所要した時間)が情報として得られるので、渋滞していた区間や、通過に掛かった所要時間が分かります。2011.3.11に発生した東日本大震災の後、このプローブ機能を利用した「通れるマップ」の提供は記憶に新しいことかと思います。しかし、このカープローブ情報だけで、日常の交通情報をリアルタイムに生成することは困難だとされています。何故か、「道路を利用している需要(交通量)がどのくらいあるのか、直接把握できない。」「ドライバー個人の運転特性や数台の走行軌跡データで、道路全体の状況を表現できない。」等の問題点があるからです。そこで、路線ごとの交通需要を把握する感知器の整備と、通行実績情報が把握できるカープローブ情報を併用することで、道路交通情報としての精度向上や提供エリア拡大に大きな期待が寄せられています。正に、交通ビッグデータへの期待であり、予測型交通情報への展開を予感させるものです。

近年、天気予報の精度は格段に高まっていますが、一方、交通情報は、「当たり、外れが多い。」「こんなに渋滞するのなら、もっと早く情報提供すべきだ。」等々、ご意見をよく耳にします。天気予報は、自然を相手にして情報収集しています。収集精度を高めることで正確な天気予報が可能になりますが、交通情報は、収集精度を高めても現在の状況を正確に提供するのが限界で、予測することは困難だとされています。予測精度(当たる確率)を高めれば高まるほど、予測を外して移動をするドライバーも多くなるからだともわれています。渋滞・混雑を好む人は別ですが、多くの人はそれを避けようとするための自衛手段をとるためだと考えられているからです。それでも、自律行動しているドライバーにとっては、今より少し先の将来が知りたいのも事実です。実に、JARTICのジレンマです。

最後になりますが、皆さんへのお願いです。交通情報を利用する時、近未来を予測した情報ではないので参考程度に留め、交通情報を過信したり、過度に不信感を持つことなく、時間的に余裕を持った安全運転に心掛けて下さい。注1)車両に、GPS等のセンサー付き「プローブ端末(ナビにこの機能を持たせたものもある)」を搭載して、逐次・継続的に走行情報を収集する調査です。



夏目漱石像と筆者

父は器用な人で、満州で中学生のころ木屋さん(?)に半田付けの手ほどきを受けて、ラジオを組み立てたとか。短波の御製制前でしょうか。接写用の器材とか、自分が入院するとき、今言うキャリアケースのような箱を作ったりしました。長男の私は、すべからく父をまねて育ちました。大通りで倒れていた街灯の安定器をニッパーで切り取ってきて、父がトタン板を加工し、合作で我が家の居間に初めて蛍光灯がつけました。半世紀以上前のことで時効成立です。古い並四でNHKをかけ流していた(?)こともあり、真空管もおもちゃの一つでした。秋葉原は山手線で30分くらいでしたので、パーツは父が買ってきて、初歩のラジオか何かにあったUY-76単管モーター用発振器を作ったのが6つか7つの時でした。できた時の達成感は工夫量に比例します。

坂戸に住んで38年になりますが、貧しい生活のなか、女房の求めを満たすべく、見回せば自作製品ばかりのような室内です。財産評価は限りなくゼロでしょうが、常駐メンテ付の地球上唯一の品々です。aはないIdeのアイデアは、製作(又は制作)の前に紙にデッサンします。父は「図は必ず引け」と言いました。これがEだな。

あとは数十年培ったものの、目が悪くなり体力とともに衰えた手先の技術と、卒業後に知った電子回路設計でmono(鉛筆ではない)を生み出します。もっともデジタル回路の場合は、マイコンを利用するまでには知識及ばず、古典的にTTL中心です。「勝手にマネジャー」みたいな人が依頼してくる機器製作を受注することもあります。

アクリル板加工を手にしたことで、秋月電子のキットを実用化した例に、「おしゃべり時計」があります。ちなみに今は入手不可です。足の手術で入院した時に、回診の医者をたまげさせました。

指先が荒れると訴えたのに、加工作業のせいではないかと、いらんことを言われました。2年ほど前には実用新案で稼げそうなもの(UR団地用一押し解除ドアロック)を試作したので、特許庁をやめて弁理士になった友達に相談したら、自分でやると係争対処の維持費が毎年100万円かかるかとアドバイスされました。アイデアを買ってもらうほうがいいそうです。わかるような写真にすると外国に盗られそうなので、チョットだけよ。どなたかmoneyしてくれないかなあ。

試作品をチョットお見せします

E = m c²

井 手 和 夫 (74卒)

理系なら知ってますよね?と、40年以上前、カラチから当時羽田に向かう機で隣席した浮橋恒彦さんという方(お、まだ“にんち”じゃないぞ)。「ええ。」「エネルギーと物質は同じ、つまりあなたの考えは、この世のモノとして現せるという式ですよ。」うムム、そうかあ。やっていることの理論的説明だな。他に自己催眠で生き方を思い通りに変えるノウハウも教えてくれましたが、別の機会にしますね。

父は器用な人で、満州で中学生のころ木屋さん(?)に半田付けの手ほどきを受けて、ラジオを組み立てたとか。短波の御製制前でしょうか。接写用の器材とか、自分が入院するとき、今言うキャリアケースのような箱を作ったりしました。長男の私は、すべからく父をまねて育ちました。大通りで倒れていた街灯の安定器をニッパーで切り取ってきて、父がトタン板を加工し、合作で我が家の居間に初めて蛍光灯がつけました。半世紀以上前のことで時効成立です。古い並四でNHKをかけ流していた(?)こともあり、真空管もおもちゃの一つでした。秋葉原は山手線で30分くらいでしたので、パーツは父が買ってきて、初歩のラジオか何かにあったUY-76単管モーター用発振器を作ったのが6つか7つの時でした。できた時の達成感は工夫量に比例します。

坂戸に住んで38年になりますが、貧しい生活のなか、女房の求めを満たすべく、見回せば自作製品ばかりのような室内です。財産評価は限りなくゼロでしょうが、常駐メンテ付の地球上唯一の品々です。aはないIdeのアイデアは、製作(又は制作)の前に紙にデッサンします。父は「図は必ず引け」と言いました。これがEだな。

あとは数十年培ったものの、目が悪くなり体力とともに衰えた手先の技術と、卒業後に知った電子回路設計でmono(鉛筆ではない)を生み出します。もっともデジタル回路の場合は、マイコンを利用するまでには知識及ばず、古典的にTTL中心です。「勝手にマネジャー」みたいな人が依頼してくる機器製作を受注することもあります。

アクリル板加工を手にしたことで、秋月電子のキットを実用化した例に、「おしゃべり時計」があります。ちなみに今は入手不可です。足の手術で入院した時に、回診の医者をたまげさせました。

指先が荒れると訴えたのに、加工作業のせいではないかと、いらんことを言われました。2年ほど前には実用新案で稼げそうなもの(UR団地用一押し解除ドアロック)を試作したので、特許庁をやめて弁理士になった友達に相談したら、自分でやると係争対処の維持費が毎年100万円かかるかとアドバイスされました。アイデアを買ってもらうほうがいいそうです。わかるような写真にすると外国に盗られそうなので、チョットだけよ。どなたかmoneyしてくれないかなあ。



ネット通販に同機能品がありますが日本語が不自然です

熊本研修旅行記

通信工学同窓会のリフレッシュスタート10年目を記念した企画、「松前重義博士が愛した故郷、熊本を巡る研修旅行」は5月17日～18日で開催しました。

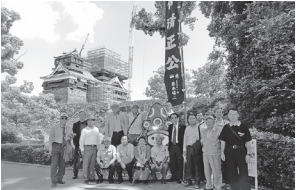


松前重義記念館にて

参加予定者は20名でしたが残念なことに親戚のご不幸などで直前2名の方が同行出来なくなりました。羽田組は8時30分11名で出発、熊本空港で10時10分に熊本組と合流し、ベテランガイドさん付貸し切りバスで震災の傷跡が残る益城地区を重い気持ちで通過し最初の見学地の松前先生の生家跡に向かいました、11歳まで過ごされた生家跡は緑川のそばにあり、「若き日に汝の思想を培え」が刻まれた大きな自然石碑と先生を紹介する掲示板がありました。また、敷地内には祖父母の墓碑が立っており、そばを流れる用水路の水も澄んでいました。先生の父上、集義氏が村長を務めた嘉島町役場(旧大島村役場)を車窓から眺め、次に向かったのは松前重義記念館です。移設された生家に並んで1階が柔道場、2階が先生の偉業の紹介と数々の貴重な直筆の書やノートが展示されている記念館です。先生は嘉島町名誉町民で作詞された「嘉島町の歌」の額が展示されており故郷を愛する思いが伝わってきました。職員の渡邊昌弘氏から先生の喜寿のパーティーのビデオを見せていただき、先生の生前のスピーチと青春譜を歌われるお姿に触れることが出来ました。記念館の隣の生家も特別に見学させていただき先生の落書きの壁も拝見しました。次に向かったのが熊本城、城彩苑で熊本名物の太平燕(麺が春雨の中国から伝わったスープそば)で昼食、その後ボランティアガイドさんの案内で2組に分かれ被災した城内の詳しい説明や神風連の変の話を聞きながら加藤神社に向かい、参拝の後2年以内の復旧を目指して修復中の天守閣をバックに記念撮影をしました。次に目指したのは「阿蘇キャンパス」、57号線(豊後街道)の阿蘇大橋崩壊のため途中からミルクロードで迂回してキャンパスに到着しました。当初入園は出来ないとあきらめていましたが、格別な配慮を賜りキャンパス内に入れていただき、「地割れ」が走るキャンパスの姿を目の当たりにして災害の大きさを実感しました。犠牲になった3名の学生諸君に全員で黙とうを捧げキャンパスを後にしました。57号線に戻り阿蘇駅から北方向の母校卒業生が経営している「阿蘇プラザホテル」に到着、早速温泉につかり、夕暮れの外輪山を眺め疲れを癒しました。夜は楽しみの宴会です。建学の歌に続き副会長柳沢さんの開宴挨拶、乾杯は地元のラズベリー酒で山根さんの発声で歓談会が始まり、各人自己紹介で場が和み交流を深めました。締めは校歌を歌い閉宴となりました。翌朝は素晴らしい快晴、屋上の露天風呂から仏の寝姿を思わせる阿蘇5山をお湯につかりながら楽しむ贅沢な時間を持ちました。朝食は名物「からし蓮根」と御粥(小生の場合)を取った後、玄関で全員記念写真撮影、会社OB会出席のため午前の便で戻る山根さんの見送りを受けて8時にバスが出発、昨日の道を市内に向いました。途中、ガイドさんが阿蘇を舞台にした「孝女白菊」の話をも交え

中西孝夫(66卒)

で熱く語ってくれました。なんと先生の奥様の筆による歌碑、「孝女白菊の碑」が阿蘇キャンパス近く立野にあるとのガイドさんの話に驚き、感激しました。この話は西南戦争に起因しております。先生は田原坂賛歌をも作詞されており熊本が戦場になった西南戦争への深い想いを感じました。57号線の途中からは豊肥線に沿って杉並木の旧街道337号(参勤交代で使われた)で市内中心部に入り、先ず先生が11歳の時、転校した白川小学校を車窓観察し熊本大学に入りました。広報戦略室の宮山美幸氏に迎えられて、準備していただいた教室で先生の熊本高等工業学校(現熊大工学部)の卒論との対面です。タイトルは「タングステン白熱電燈球の黒化及び繊維破損に就いて」当時の白熱電燈球の寿命の問題を原因から要因の球内瓦斯、繊維の蒸発、更にエジソン効果による球内黒化について述べており先生の電気への深い関心と共に、大学で選んだ真空管研究の源泉があるように感じました。論文閲覧後、歴史ある熊大キャンパスを案内していただきました。印象に残るのは、先生の卒業直後の大正14年に建てられ有形文化財で今も工学部が使用している熊本高工本館、重要文化財の五高記念館、夏目漱石像、ラフカディオハーンのレリーフです。熊大でも地震被害は甚大で工学部の教室はプレハブの建物で行われており被害の深刻さを痛感しました。熊大を後にして、熊本高校(旧熊本中学)を車窓観察し「熊本キャンパス」に向かいました。事務課の奥村幸生氏の出迎えを受け、先ず荒木キャンパス長に阿蘇キャンパスの被害の状況、農学部の新しい姿、食に加えて健康社会を築く内容のプレゼンを受けた後キャンパスを案内していただきました。昼食は、熊本ならではの馬肉の刺身、焼き肉に舌鼓を打った後、最後の見学施設「宇宙情報センター」に向かいました。職員の大庭康彦氏の出迎えを受け、館内案内と説明をしていただきました。地震発生時に電源装置と情報センターの要であるアンテナに甚大な被害を受け現在3基しか使用出来ないが湘南にあるバックアップを使用しほぼ震災前の機能に戻っているとの説明でした。又職員は2名で日々運用とのこと。ひまわり、ランドサットから撮った桜島、西ノ島が画面に映っているのが印象的でした。最後の見学を終え阿蘇熊本空港で熊本組と別れ3時30分の便で全員無事帰途に就きました。先生が愛した故郷、熊本に残る数多くの足跡をたどることが出来た有意義な旅でした。最後にこの企画、実施にご尽力いただいた東海教育産業旅行部、田中大成氏に謝辞を申し上げます。



加藤神社にて



阿蘇プラザホテルにて

Techno cube (19号館)の竣工



19号館

2017年3月2日に湘南キャンパスに新たな校舎 Techno Cube (19号館)が竣工し、4月より運用を開始しました。この建物は東海大学建学75周年記念事業の一環で進めている理工系施設整備事業で建設されました。地上10階建てで1階から3階は共用部分、4階以上が情報理工学部・工学部(一部学科を除く)の研究室、実験室、製図室などが配置されています。1階は白を基調としたデザインで明るく、3階までの吹き抜けで開放感のある大きなスペースが設けられました。ここにある16面マルチディスプレイには、常時CNNの放送が映し出されています。シダックスフードサービス(株)の運営する「カフェラウンジ19」もここで営業し、ピザやパスタ、ボウルライスなどの販売が行われ、お昼時には学生で賑わっています。2階にはアクティブラーニングの授業が行える設備を設けたオープンマルチアトリエや、オープン学習スペースのラーニングコモンズ、グループ学習室などが設けられており、授業での利用はもちろんのこと、学生の主体的な学習が行われています。

村田信一(86卒)

さらに、3階にはホテルのロビーのような椅子、テーブルが置かれた、アカデミックラウンジが設けられています。このラウンジは大学院生や教員、社会人らの交流スペースとして、利用されます。その他には、理工系工房、240名収容可能な一般教室、3階から10階までの吹き抜けで、開放感抜群の屋外テラスなどが設置されています。会員の皆様も是非、足をお運びいただき、最新の理工系施設を見学されてはいかがでしょうか。



カフェラウンジ



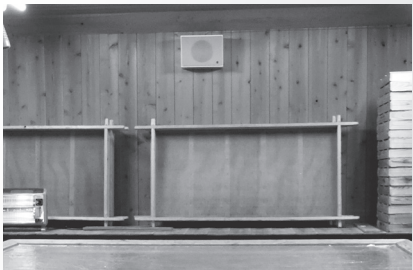
アカデミックラウンジ

酒蔵“金井酒造”見学会報告

去る3月11日秦野市にあります金井酒造の見学に参加しました。ここは東海大学公認商品として東海教育産業(株)が限定販売している日本酒「魂乃鼓」を製造している酒蔵です。この酒は酒米生産プロジェクトとして誕生したもので、東海大学教養学部遊休地活用プロジェクトの一つと、農業の活性化と物作りという視点から東海教育産業(株)と共同で酒米作りが実施され、その酒米を金井酒造で製造しているものです。酒蔵のある秦野市の湧水は名水百選にも選ばれており、酒造りには絶好の場所となっています。なお魂乃鼓の由来は東海大学校歌の最後の句「魂乃鼓を打ち鳴らせ」から来ております。これらの事を知った会員の方々からは是非見学したいとの声があり、東海教育産業(株)の柳沢社長(当会副会長)はじめ社員の皆様のご尽力で今回の見学会開催となりました。特に金井酒造は酒造り工程で最も重要な製麴の際、麴室と言われる部屋にスピーカを設置、モーツァルトの曲を流し、その振動で麴菌の発酵を促すという事でも知られています。当日は13名の方が参加され、担当の方の案内で蔵の中を見学させて頂きました。特に酒米の管理や麴の扱いは極めてデリケートで神経を使う作業との事を知り、私如き呑兵衛は心して味合うべしと反省しました。見学後はお楽しみの試飲タイムで一同何種類もの酒を

小林一雄(72卒)

飲み比べながらそれぞれの特徴やご苦労などのお話を伺いました。見学会終了後更に飲みたいという面々で渋沢駅前の居酒屋に流れ、遅くまで酒談義などに花を咲かせました。また、席上今後も通信に拘らず幅広い視点に立った見学会等の企画要望も出され、楽しい一日が終わりました。



麴室



試飲会

事務局
便り

● お願い

円滑な運営のため会費未納の方の納入をお願いします
住所、メールなどの変更は事務局までご連絡ください
クラス会開催支援いたします。事務局までご連絡ください
代議員、役員になって活動していただける方のご連絡をお待ちします

ホームページ <http://tasc.gr.jp>

事務局宛てメール jimu@tasc.gr.jp

東海教育産業株式会社

代表取締役 柳 沢 真 一

〒東海大学オフィシャルグッズ販売

Tウェーブ | 検索

<http://twave.tokai-eic.co.jp/>

本 社 神奈川県伊勢原市下船屋164
Tel. 0463-92-1881 (代)

伊勢原旅行センター 神奈川県伊勢原市下船屋143 東海大学医学部付属病院院内
Tel. 0463-93-3980 (代)

湘南旅行センター 神奈川県秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館内
Tel. 0463-77-3522 (代)

熊本旅行センター 熊本県熊本市東区渡部9-1-1 東海大学けやき会館内
Tel. 096-250-2685 (代)

営業企画室 神奈川県伊勢原市下船屋164
Tel. 0463-93-1870 (代)

※ホームページ <http://www.tokai-eic.co.jp/>

-4-